

I 目指す学校

【校訓】「清く 正しく 朗らかに」

【教育目標】全人教育を目指し、生徒が人間性豊かに成長することを願い、将来有為な社会形成者になることを希求して、次の目標達成に向けた教育を推進する。

- 1 自主性を持ち、責任を重んずる人になる。
- 2 明朗な気風を養い、個性と創造力の豊かな人になる。
- 3 社会に貢献し、困難・辛苦に耐え得る人になる。

【スクール・ミッション】

Critical Thinking (物事の本質を問い続け、粘り強く考える思考法)、  
Creative Thinking (自らもつ知識同士や他者とのつながりによる新たな発想)、  
Collaboration (互いに補完し、発展させるための協働)

を3つの柱として、多様な見方・考え方を学ぶことで、課題発見・解決力、創造性を持つ人材を育成します。

【スクール・ポリシー】

(1) グラデュエーション・ポリシー

自ら問いを立て、その解決に取り組む、課題発見・課題解決力と、創造性をもった生徒—現状に甘んじることなく、自分や社会がより良くなるための前向きな変化を模索する『チェンジ・メイカー』—

- 1 自分の頭で考え、自分の言葉で表現する力を充実・向上させ、前向きな批判精神を育成する。
- 2 大学入学後に、知の体系を専門的に学び、自分の能力をさらに発展させることができる基礎的な学力と教養、素養を身に付けさせる。
- 3 他者と協働しながら粘り強く課題解決に取り組む姿勢を育成する。
- 4 他者との協働において、相手の立場を尊重し、人として何が大切なことかを主体的に選択できる判断力を身に付けさせる。

(2) カリキュラム・ポリシー

学習活動と特別活動(部活動・学校行事)のいずれにおいても、はじめをつけてすべてをやり抜く事を目指す。「グラデュエーション・ポリシー」を踏まえ、具体的に育てたい資質・能力を「知識・技能(Knowledge)」、「思考・判断・表現(Ability)」、「主体的に学習に取り組む態度(Motivation)」で分けて言語化し、それぞれを基本要素の「3つのC(C1 C2 C3)」にそれぞれ分類した。

**Critical Thinking (C1)** 既存の情報を用ひにせず、真偽を疑い、多面的に捉え、「なぜ?」「何のため?」という物事の本質を問い続けながら、粘り強く考えること。

**Creative Thinking (C2)** 自らの持つ知識同士のつながりや、他者の持っている知識とのつながりによって新たな発想をすること。

**Collaboration (C3)** 個人それぞれが、自己の強み弱みを客観的に分析した上で、弱みについては互いに補完し、強みについては互いに掛け合わせてさらに発展させるために協働すること。

		C1	C2	C3
「知識・技能」 (Knowledge)	▷教科で身に付けさせる力	○	○	○
「思考・判断・ 表現」(Ability)	▷自分の頭で考える力	○	○	
	▷自分の言葉で伝える力			○
	▷他者と伝え合うことのできる力			○
	▷自分を客観視できる力	○		

	▷新たな価値観を作り出すことのできる力	○	○	○
	▷蓄積した知識を用いて考える力		○	
	▷状況に応じて何が重要なのかを主体的に判断する力	○		
「主体的に学習に取り組む態度」 (Motivation)	▷信念をもって積極的に行動することのできる態度		○	○
	▷知の習得・活用・探究に努める態度		○	
	▷他者と関わろうとする態度			○
	▷礼を正す態度			○
	▷社会の変化に主体的に向き合う態度	○		
	▷新たな世界を逞しく切り拓こうとする態度		○	
	▷他者と協働しながら自らを高めていく態度			○
	▷粘り強く考える態度	○	○	○
	▷高い志によって課題の解決に取り組む態度	○	○	
	▷他者のために行動する態度			○

主として教科での活動を中心に据えた学習活動では、「知識・技能」の項目を各教科・科目で設定する。そこに7つの「思考・判断・表現」と、10の「主体的に学習に取り組む態度」の中から、各教科・科目が学習活動で主眼に置く項目を選択する。

特別活動では、上記の7つの「思考・判断・表現」と、10の「主体的に学習に取り組む態度」の中から、顧問や指導者等が特別活動で主眼に置く項目を選択する。

### (3) アドミッション・ポリシー

「自ら問いを立て、その解決に取り組む、課題発見・課題解決力と、創造性を持った生徒」の基本要素「3つのC」に基づいた、入学者の受け入れに関する方針。本校では、以下のような生徒の入学を求める。

**Critical Thinking (C1)** 教科学習をはじめ、部活動や生徒会活動においても、既存の情報を使うのみにせず、真意を疑い、物事の本質を問い続けながら粘り強く考えようとする生徒。

**Creative Thinking (C2)** 自らの持つ知識同士のつながりや、他者の持っている知識とのつながりによって、多方面において新たな発想をしようとする生徒。

**Collaboration (C3)** 個人それぞれが他者と協働し、自己の弱みについては補完し、強みについてはさらに発展させようとする生徒。

## II 中期的目標と方策

本校は創立以来、文武両道の校是のもと、進学実績、部活動、学校行事などに優れた成果を上げ、世界に貢献できる有為な人材を育成してきた。近年は進学指導重点校に指定され、より一層の進学実績と都立高校の牽引役としての役割を期待されている。そこで本校は、80年を超える教育の伝統と財産を土台に、より水準の高い教育活動を創造し、社会に貢献できる21世紀を担うリーダーの育成を目指し、地域や都民の期待に確実に応えられる学校となる必要がある。また、進学指導重点校として生徒の高い進路希望を実現するため、難関国公立大学現役合格者数45人以上（内東大合格者数12人以上）、国公立大学現役合格者数130人以上を目標として教育活動を展開する。生徒の人間性豊かな成長を実現するため、部活動や学校行事を含め、何事にも全力で取り組む意欲と向上心に溢れる生徒を育てるよう、全教職員が一丸となって取り組むことで、高いレベルの文武両道を実現する。

### 1 学習活動

学力向上プランに基づき、生徒が課題発見・解決能力や言語的表現能力など多様な能力を練磨し、教

養と知性溢れる人生の基礎を築くとともに、思考力・判断力・表現力等の能力や、主体的に学習に取り組む態度を育成し、深い学びが実現できるよう、教育活動全体の質を高める。

## 2 進路指導

進学指導重点校としての実績を踏まえ、キャリア教育の視点にたった3年間の進路指導計画に沿って、1学年より3年間を見通した系統的、組織的な進路指導をきめ細かにを行い、生徒の高い進路希望を実現することにより、進路実績を一層向上させる。

## 3 生活指導

規範意識を高める指導を丁寧に行い、体罰の根絶に向けた取組を推進するとともに、いじめ問題への対応については、日常的に未然防止に取り組むことで、生徒が安心して学校生活に取り組める環境を保証する。

## 4 特別活動・部活動

学校生活を充実させ、学習に取り組む意欲を喚起することを目指して、生徒が文化的・体育的活動に打ち込める環境を整備し、その自主的な取組みを最大限に支援することで自主性や責任感、社会に貢献する心を育てるとともに、その活動の成果を広く都民や地域に積極的に公開する。

## 5 美化・健康づくり

生徒が生涯にわたり心身ともに健康的な生活を営めるよう、生徒の健康保持増進や体力づくりの推進に努めるとともに、相談活動の充実を図る。災害等に備え、危機管理体制を構築し生徒の安全を確保するとともに、地域の防災拠点としての役割を果たす。

## 6 募集・広報活動

教育内容や教育活動の成果を、学校説明会やホームページ等のあらゆる機会をとらえて、迅速且つ計画的に広く都民に発信することにより広報活動の充実を図り、入学者選抜一次（応募）倍率2倍以上を数値目標として募集対策に取り組む。

## 7 学校運営・組織体制

本校の使命を達成できる機能的で活力のある学校組織を構築し、教職員が公務員としての自覚と使命感のもとに創造的な教育活動と学校運営を実現するよう、柔軟な学校経営を目指す。経営企画室の経営参画を推進し、経営企画室職員と教員が連携しながら学校全体で教育目標の達成に努める。

## 8 国際理解教育

オリンピック・パラリンピック教育のレガシーを活かし、多様性を尊重し、共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢献できる人間の育成に努める。

# Ⅲ 今年度の取組目標と方策

## 1 教育活動の目標と方策

### (1) 学習活動

- ① 進学指導重点校として、すべての生徒に大学進学に向けての基礎学力定着を図る。
  - ・学力調査問題や高校入試の結果分析を活用し、指導計画を作成する。
  - ・習熟度別授業や少人数授業を実施し、生徒の学力に合った授業を実施する。
  - ・学習上の課題に応じた補習・補講・個別指導をきめ細かに実施する。
- ② 生徒の学習意欲を向上させるため、授業内容・方法を工夫する。
  - ・一学年の段階から大学入試問題などを示して、目標レベルを明確にした学習指導を行う。
  - ・全ての教科・科目で、レベルの高い授業・生徒の知的好奇心を刺激する授業を行う。
  - ・教科・科目の特性に応じて、課題探究学習や討論、レポート作成等を活用した授業実践や評価方法の工夫により、言語活動を充実させる。
  - ・アクティブ・ラーニングの手法により、主体的、対話的で深い学びを実現する。
  - ・読書活動を推進し、図書館の活用を促すとともに、学校図書館の充実を図る。
- ③ 生徒の学習時間を確保し、進学実績の向上を図る。
  - ・生徒の学習時間を把握するため、生徒の進路意識調査を実施する。

- ・新たに到達度テストを導入し、早期に学習習慣の重要性を認識させる。
  - ・課題・宿題・小テスト等を組織的・計画的に課し、予習・復習の必要な授業を行うことで生徒の学習習慣を定着させる。
  - ・定期考査前の部活動のあり方のルールを徹底し、家庭学習時間を十分に確保する。
  - ・PTA・同窓会・後援会等の外部組織との連携により、外部人材による自主学習支援事業を活用し、受験対策としての自習室チューターを配置し、自習室を開放する。
- ④ 組織として教員の授業力向上に努め、教科指導の充実を図る。
- ・教科としての組織目標を設定し、その実施状況の把握に努め、改善点を明確にしていく。
  - ・年間指導計画、週ごとの指導計画を作成し、生徒・保護者に周知するとともに、ホームページにも公開し、授業を計画的に実施する。
  - ・教科会を開催し、科目内の指導内容の統一、進度調整を図るとともに、生徒の学力向上のための方策を検討するなど、教科マネジメントの充実を図る。
  - ・観点別学習状況の評価方法を早期に明確化し、指導の在り方や評価方法の工夫を行う。
  - ・教科として指導内容を統一するため、定期考査の統一化に努める。
  - ・進学指導研究協議会による指名制による授業研究に本校の教員を積極的に参加させる。
  - ・生徒による授業評価、校内外の研修機会を積極的に活用して、授業力向上に努める。
- ⑤ 東京都の教育施策を見据えて、新たな教育課題に取り組む。
- ・「英語教育研究推進校」として、「聞く」「話す」等4技能の育成に重点を置いたきめ細か指導を実施し、CAN DOリストを活用して、生徒の「使える英語力」を向上させる。
  - ・「理数研究校」として、理数に興味・関心をもつ生徒を増やすとともに、その資質・能力を伸ばすための取組を推進し、各種コンテストへの参加を促す。
- ⑥ デジタル技術を活用した教育を推進する。
- ・一人1台端末の導入に伴い、端末を用いた授業やコミュニケーションツールとしての活用を展開する。
  - ・ICT機器を活用し、デジタルコンテンツの作成等、新たな指導方法や教材の開発により、生徒の興味・関心を刺激する授業を行う。
  - ・授業のライブ配信や動画配信等、オンラインを活用した授業を準備する。

## (2) 進路指導

- ① 1学年より3年間を見通した系統的、組織的な進路指導をきめ細かに行う。
- ・3年間を見通した年間の進路指導計画に基づき、体系的なキャリア教育を実施する。
  - ・本校の進路指導方針を徹底させるため、キャリアガイダンスを実施する。
  - ・大学の教育内容や特色を理解させるとともに、自己の将来を見据えて仕事の魅力や意義を考えさせるため、進路講演会や進路懇談会、進路説明会、模擬授業、大学見学会を実施する。
  - ・生徒の進路希望、学習状況を把握するため、個別の面談シートを活用するなどして、年3回以上個人面談を行なう。必要に応じ、三者（保護者）面談を行なう。
  - ・保護者の理解による進路指導を行うため、PTAや外部機関と連携し、保護者会や懇談会、講演会を実施する。
  - ・進路相談の体制や資料の充実、進路ニュースの発行により、進路相談機能を充実させる。
- ② 学力向上のため、長期休業日中の講習の参加生徒の増加を目指す。
- ・夏季休業日に3日を1クールとした8期に及ぶ講習期間を設置し、夏季休業日全体で講習を実施する。夏季講習は、各教科で講習内容を検討し、全員態勢で補習に取り組む。
  - ・早い時期に長期休業日中の講習の講座数・日程を生徒に示すことにより、早期に生徒に学習計画を立てさせるとともに、部活動、学校行事より講習を優先するよう生徒を指導して、講習の参加生徒の増加を目指す。
  - ・長期休業中以外でも、多くの教科・科目で補習・講習を行い、生徒の進路実現に資する。
- ③ 進学指導重点校として培ってきた学習指導・進路指導ノウハウをさらに発展させるとともに、

進路データの蓄積を行い、諸会議での共有を通して教員の共通理解を図る。

- ・「進路の手引き」を作成し、生徒の進路意識を向上させるとともに、過去の進路データを生徒に提示し、進路決定の参考にさせる。
- ・各学年、年3回模擬テストを実施する。また、第三学年においてはマーク模試と記述模試の結果のドッキング判定により正確な学力を測定する。
- ・生徒の学力を把握し、教科指導・進路指導の課題把握のため、校内模試分析会を実施する。
- ・志望校検討会議・出願指導研究会を実施し、きめ細かな進路指導を行なう。
- ・共通テストリサーチを実施し、その結果をもとに、担任・進路部が生徒の志望大学決定のアドバイスをを行う。

### (3) 生活指導

- ① 基本的な生活習慣の確立に向けた指導を重点的に行う。
  - ・集会、HRを活用し、自己規律とともに公共心や規範意識を育てる生活指導を推進する。
  - ・部長会・集会等を通じて活動時間・下校時刻の厳守を指導し、下校時のマナーを守らせる。
  - ・公共ルールの遵守やSNSルールに基づくインターネット・携帯電話等の適正な利用についての指導を計画的に実施する。
- ② 生徒が安心して学校生活に取り組めるよう、質の高い教育環境を整える。
  - ・いじめ防止基本方針に則り、いじめは絶対許さないという毅然とした態度で臨み、各々の教職員の役割と責任を明確化するとともに、機動的かつ組織的な対応を実施する。
  - ・不審者の侵入や盗難防止のために施錠を徹底するとともに、教職員の意識の徹底及び生徒への注意喚起と迅速な対応を行う。
- ③ 関係諸機関との連携や交流を通して、生徒の安全を守り、公共心を育てる取組みを実施する。
  - ・交通安全教室や薬物乱用防止教室等を実施し、生徒が自らの安全についての自覚を高める。
  - ・生徒会の交流活動などを通じて、生徒の自主的活動を充実させる。
  - ・ボランティア活動を、教科「人間と社会」の体験活動として認定し、ボランティア活動を奨励することで社会貢献意欲の向上を図る。

### (4) 特別活動・部活動

- ① 学校行事を通じて、国立高校生としての一体感と誇りを持たせ、学校生活を充実・発展させる。
  - ・委員会生徒との連携を密にしながらか活動計画を明確にし、生徒、教職員との意思疎通を図り企画運営を進めることで、生徒の満足度を高める。
  - ・第九演奏会において、プロのオーケストラや指揮者・ソリストと共演することにより、高い芸術性を身に付けさせる。
  - ・文化祭クラス演劇等において、生徒自らが関係機関と折衝することにより、著作権・商標権等を尊重する態度を養うよう指導する。
  - ・体育祭において、スポーツに親しむ態度を身に付けさせるとともに、体力づくりの推進に努める。
  - ・生徒に学校行事における安全点検を実施させるとともに、教職員がそれぞれの実行委員会に参加し、適切な指導を行うことにより事故0を目指し、危機管理に努める。
- ② 部活動を通じて、ルールを順守する態度を身に付けさせると共に、目標に向かって協力し、努力する態度を育成させる。
  - ・新入生オリエンテーション等で活動内容を周知し、加入率100%以上を達成し、積極的に活力のある充実した学校生活を送らせる。
  - ・部長会での情報交換を密にして、活動諸届け等の提出の徹底や下校時間の順守など生徒の責任ある活動を実現する。
  - ・本校の部活動方針に基づいて、部活動ごとに年間目標、指導方針、指導内容、指導方法を策定させ、部活動計画を把握する。また、部活動毎に平日、週休日において活動しない日を確実に設け、メリハリのある活動と家庭学習時間の確保を図る。

- ・部顧問や外部指導員に対して体罰根絶に向けた研修会を実施するとともに、部長会を通じていじめや暴力のない活動を促していく。
- ・日々の活動状況や成果を学校内外に積極的に広報し、活動の動機づけとするため、部活動のページの更新を推進する。

#### (5) 美化・健康づくり

- ① 快適な学習環境維持のために、校内美化に努める。
  - ・美化委員会、整美委員会、合同委員会、生徒会、部長会などの生徒組織を通じて、生徒が主体的に美化活動を行うように促す。
  - ・毎日の教室清掃及び週3回以上特別区域の清掃を行う。学校行事等の前後に大掃除を行い、校内美化に努める。
- ② 生徒の心身の健康に配慮した教育活動を行う。
  - ・学校保健計画を策定するとともに、定期健康診断による生徒の健康状況把握や緊急時の対応方法の徹底を図る。
  - ・セーフティ教室や保健の授業、保健指導等を通して、健康及び安全について、生徒自らが適切に管理できる能力を育成する。
  - ・授業や保健指導の中で、食生活の基本や心身の健康管理についての生徒の意識を高め、体力・運動能力の向上を図る。
  - ・避難訓練や水道局と連携した訓練、関係機関と連携した防災講話の実施を通して、災害時の心構えや対応方法を身に付けさせ、被災者支援を主体的に行える資質・能力を養う。
  - ・スクールカウンセラーを活用し、心身の健康に不安を持つ生徒・保護者に対する相談支援体制を整える。生徒理解や特別支援教育についての研修を複数回行う。
  - ・生徒支援委員会を設置し、課題を抱える生徒の教員間の共通認識を図るとともに、個々の生徒に対する支援内容を検討する。
  - ・様々な機会をとらえて生命尊重についての指導を行うとともに、すべての生徒に対し、年間1回以上、生命尊重や不安な際のサインの出し方についての授業を行う。
  - ・全校的な感染症予防対策の徹底及び意識の啓発を随時行う。

#### (6) 募集・広報活動

- ① スクールガイド及び学校紹介資料を早期に作成し、広報活動の充実を図る。
  - ・スクールガイド（学校案内）の構成を検討し、新学習指導要領の始まりに向けて内容を見直し、文章や写真を新しく入れ替える。
  - ・本校の魅力を十分発信でき、分かりやすい説明用の資料を作成し、説明会で活用する。
- ② 学校説明会や授業公開、ホームページを活用し、全教員が必ず募集広報活動に参画することで、本校の良さを強くアピールする。
  - ・生徒の学校生活の状況を迅速に外部に発信すべく、適宜、ホームページを更新する。説明会等の内容を動画により配信する。
  - ・学校説明会の内容を工夫し、中学生とその保護者に本校の魅力を分かりやすく広報する。
  - ・学校説明会を3回、夏季休業中の学校見学を10回以上、授業公開週間を2回設ける。入試説明会や体験授業・体験入部等により、中学生に本校の授業や部活動について理解を得る。
- ③ 進学重点校に相応しい入学選抜方法を検討する。
  - ・推薦に基づく選抜において、適切に小論文問題の作成と、集団討論のテーマ決定をする。
  - ・学力検査に基づく選抜において、適切に国・数・英の自校作成問題を作成する。
  - ・採点業務の組織的な対応、解答用紙の工夫、複数による確実な点検等により、適切な入学選抜業務を実施する。
- ④ 地域の小・中学校との連携による相互の教育課題の共有と解決、地域住民との交流を図る。
  - ・長期休業日に国立市立中学校3校に出向き、生徒に中学生の学習支援を行わせる。
  - ・国立市立第三小学校の防災訓練に生徒を派遣し、合同防災訓練を実施する。

- ・公開講座・施設開放を通じて、学校を積極的に開放し、都民の要望に応じていく。
- ・様々な機会をとらえて、生徒主体による地域交流の場面を設定する。
- ・文化祭等を広く公開する機会を設け、近隣住民・同窓生等の枠設置などの工夫をする。

#### (7) 学校運営・組織体制

- ① 校内組織を活性化し、より良い学校づくりを目指した取組を行うための協働体制を確立する。
  - ・学校評価アンケートを活用して課題を明らかにし、学校改革に向けた目標の共有化を図り、対応策の検討を分掌・学年で行う。
  - ・これまでに蓄積された多様なデータや、アンケートの結果等を、適宜適切にフィードバックし、成果の検証や課題の検討を学校全体で進めていく。
  - ・企画調整会議を核にして、学年会・分掌部会との情報の確実な相互伝達と共有化により、組織的な校務運営を推進する。
  - ・カリキュラムマネジメント委員会を中心に、学校のグランドデザインに基づいて、中長期的視点での教育活動の在り方の検討を行う。
- ② ICTの活用や会議の効率的運用等により校務を効率よく遂行することで、教職員のライフ・ワーク・バランスの推進を図る。
  - ・学校閉庁日の徹底や休暇取得の呼びかけにより、教職員の年間15日以上有給休暇取得を促進する。
  - ・経営企画室との連携によるサービス管理により、週休日・休日の振替を確実にを行い、教職員各自がマイ定時退庁日を設定することで、在校時間の短縮を図る。
  - ・校務サーバへのデータの蓄積や電子起案の徹底、校務サーバ内の掲示板及びTAIMSメールを活用した連絡や周知事項の徹底により、業務の効率化を進める。
  - ・時間設定の工夫、特に終了時刻を予め定めることで諸会議の簡素化を図る。
- ③ 教職員の資質・能力を向上させ、進学指導重点校として教育活動を充実させる。
  - ・担当者を明確にした、組織的なOJTを実施することにより、職務遂行能力を向上させる。
  - ・指導教諭を活用し、若手・中堅教員を対象に授業力育成道場を設け、研究授業と研究協議を行うとともに、相互授業参観等を通して、学力向上や学習時間の増加に繋がる授業の工夫等、教員の指導力向上を図る。
  - ・指導教諭による模範授業等を実施し、本校の教育力を全都に公開していく。
  - ・「体罰根絶に向けた総合的な対策」に基づき、職員会議等で体罰禁止について繰り返し指導するとともに、日常的に未然防止に取り組む。
  - ・サービス事故防止月間にサービス事故防止研修を実施する。情報漏えい事故0を目指し、情報管理・情報セキュリティについての研修を行う。
- ④ 経営企画室の経営参画を推進し、業務を円滑に遂行する。
  - ・経営企画室ガイドラインに基づき、経営企画室の経営参画を進める。
  - ・自律経営推進予算の計画的な事務執行を進める。
  - ・授業料徴収事務を適切に実施する。就学支援金の適正かつ迅速な事務処理を行う。
  - ・経営企画室職員と教育職員との密な連絡などの連携により、業務を確実にを行うようにする。
  - ・中長期的見通しに立って施設・備品・設備の更新を行うとともに、施設・設備の不具合については迅速に対応できるようにする。

#### (8) 国際理解教育

- ① グローバルリーダーを育成する取組を実施する。
  - ・次世代リーダー育成道場による海外留学を奨励する。
  - ・外部機関による海外留学の機会を積極的に紹介する。
- ② 国際社会で活躍するのに必要なアイデンティティの育成や日本文化の理解を推進する。
  - ・鑑賞教室等により、日本の伝統文化に触れる機会を確保する。
  - ・JET青年との交流活動や留学生を招いての「留学生との異文化交流」を実施する。

2 重点目標と数値目標

重点目標	具 体 的 な 数 値 目 標
1 広報活動を充実させ、 募集対策に努める。	○夏季見学会来場者数 ① 29年度 30年度 31(元)年度 2年度 3年度 3387名 2722名 3069名 682名 896名 → 4年度 3000名
	○学校説明会来場者数 ② 29年度 30年度 31(元)年度 2年度 3年度 1145名 1312名 1204名 747名 851名 → 3年度 1200名
	○入試説明会来場者数 ③ 29年度 30年度 31(元)年度 2年度 3年度 705名 746名 616名 252名 282名 → 3年度 600名
	○入学者選抜【推薦に基づく選抜】応募倍率 ④ 29年度 30年度 31(元)年度 2年度 3年度 4.52倍 3.37倍 3.79倍 4.06倍 3.73倍 → 3年度 4.00倍
	○入学者選抜【学力検査に基づく選抜】応募倍率 ⑤ 29年度 30年度 31(元)年度 2年度 3年度 1.76倍 1.66倍 1.66倍 1.54倍 1.68倍 → 3年度 1.80倍
2 進学重点校としての進 学実績を向上させる。	○東京大学現役合格者数 ① 29年度 30年度 31(元)年度 2年度 3年度 7名 9名 8名 15名 11名 → 3年度 12名
	○難関国公立大学現役合格者数 (東京・東京工業・一橋・京都十国公立医学部医学科) ② 29年度 30年度 31(元)年度 2年度 3年度 29名 38名 56名 54名 50名 → 3年度 45名
	○東京・京都以外の旧帝大現役合格者数 (北海道・東北・名古屋・大阪・九州) ③ 29年度 30年度 31(元)年度 2年度 3年度 8名 11名 20名 16名 16名 → 3年度 15名
	○国公立大学(四年制)現役合格者数 ④ 29年度 30年度 31(元)年度 2年度 3年度 94名 117名 141名 151名 134名 → 3年度 130名
	○難関私立大学現役合格者数 (早稲田・慶應・上智・東京理科) ⑤ 29年度 30年度 31(元)年度 2年度 3年度 140名 90名 178名 190名 308名 → 3年度 180名
	○大学入学共通テスト文系6教科7科目・理系5教科7科目受験者 ⑥ 29年度 30年度 31(元)年度 2年度 3年度 249名 254名 247名 254名 247名 → 3年度 250名
	○大学入学共通テスト文系6教科7科目得点上回り指数 ⑦ 29年度 30年度 31(元)年度 2年度 3年度 1.28 1.29 1.30 1.30 1.30 → 3年度 1.29
	○大学入学共通テスト理系5教科7科目得点上回り指数 ⑧ 29年度 30年度 31(元)年度 2年度 3年度 1.23 1.23 1.22 1.25 1.27 → 3年度 1.25
3 学力向上のため、長期 休業日中の講習を充 実させる。	○長期休業日の講習講座数 ① 29年度 30年度 31(元)年度 2年度 3年度 191講座 177講座 165講座 112講座 138講座 → 3年度 170講座
	○長期休業日の講習受講者数(延べ) ② 29年度 30年度 31(元)年度 2年度 3年度 11629名 11704名 10155名 7261名 9615名 → 3年度 10000名
4 .学力向上のため、家 庭学習時間を増加さ せる。	○家庭学習時間 ① 29年度 30年度 31(元)年度 2年度 3年度 1年(春季) 1.51時間 1.45時間 1.44時間 1.41時間 1.41時間 → 3年度 2時間 2年(春季) 1.22時間 1.22時間 1.06時間 1.60時間 1.64時間 → 3年度 3時間 3年(春季) 2.15時間 1.89時間 2.48時間 3.36時間 2.53時間 → 3年度 4時間
5 授業改善に努め、生徒 の授業満足度を向上さ せる。	○学校評価項目「授業その他、本校の学習や教育のあり方全般に満足していますか。」 の「A: そう思う」、「B: ややそう思う」の合計ポイント ① 29年度 30年度 31(元)年度 2年度 3年度 78.9% 64.9% 81.2% 86.8% 87.1% → 3年度 90%
6 きめの細かな進路指 導を実施し、進路指導 満足度を向上させる。	○学校評価項目「本校の進路指導は、進路実現の参考になり役立っていると思いますか。」 の「A: そう思う」、「B: ややそう思う」の合計ポイント ① 29年度 30年度 31(元)年度 2年度 3年度 89.6% 80.8% 85.0% 88.3% 84.7% → 3年度 90%
7 特別活動・部活動を充 実させ、生徒の学校満 足度を向上させる。	○学校評価項目「学校生活に充実感を感じていますか。」 の「A: そう思う」、「B: ややそう思う」の合計ポイント ① 29年度 30年度 31(元)年度 2年度 3年度 92.0% 84.2% 95.3% 96.4% 93.3% → 3年度 90%